神奈川実践漢方勉強会

神奈川実践漢方勉強会は、原則として半年に2回程度、カネボウ薬品(株)の横浜にある営業所の会議室を利用して開催されている。

昭和大学横浜市北部病院麻酔科教授である世良田和幸先生を世話人として、医師・薬剤師を中心に、文字通り実践的勉強会が続けられた。

今回のプログラムと充実した内容の一部を紹介する。

① **漢方中医学**　基礎シリーズ第3回ー臓腑の病証と治療(肺)ー
　平馬　直樹　先生（平馬医院 副院長）

② **症例検討会**　肺に関してー咳嗽を中心にー
　古賀　実芳　先生(たかみざわ医院)

③ **総合討論**　世良田　和幸　先生(昭和大学横浜市北部病院麻酔科 教授)

漢方中医学　基礎シリーズ第3回 ー臓腑の病証と治療(肺)ー

過去2回(弁証論治の方法、臓腑の病証と治療(脾胃))に引き続き、第3回目の今回は「肺」の病証と治療についての中医学的考察が、平馬直樹先生から行われた。

先生は、東京医科大学をご卒業後、北里研究所・東洋医学総合研究所で大塚敬節先生に師事され、その後、1987年から中医学を深めるため中国に留学された。帰国後は牧田総合病院の中医学診療部長を歴任されたのち、現在は平馬医院副院長としてご活躍の大変著名な先生である。

先生からは、肺の生理機能(**表1**)、大腸の生理機能、肺と大腸の病証、肺の病証に用いる薬物などについて詳しい解説が行われた。とくに、肺・大腸の病証については(**表2**)、その病態、症候、治法、方剤の各項目についても詳しく言及され、参加者が熱心にメモをとっていた。

表1　肺の生理機能

気を主る。
宣散と粛降を主る。
水道を通調する。
百脈を朝め、治節を主る。

表2　肺・大腸の病証

1）肺気虚	6）熱邪壅肺
2）肺陰虚	7）痰湿阻肺
3）風寒束肺	8）燥邪犯肺
4）寒邪客肺	9）大腸湿熱
5）風熱犯肺	10）伝道失司

症例検討会 肺に関して ー咳嗽を中心にー

たかみざわ医院の古賀実芳先生からは、咳嗽を中心にした症例が報告された。その1例を紹介する。

症例は39歳女性で、主訴は咳・前胸部不快感。10年程前から春先に咳がでていたが、最近は飲食する度に咳き込むため来院。咳は燥性咳嗽で、痰は少量。いつも喉から前胸部がもやもやしている。内科的検査では問題なし。

気血両虚と肺胃陰虚と捉え、十全大補湯1日3回と麦門冬湯眠前1回の合方で、主訴は消失。服薬中止後再発し、併せて花粉症(熱症タイプ)が発症、冷えほてりあり。温経湯合五虎湯(頓用)で軽快したが、春先に後頸部のこりと痛みが出現すること、嗅覚刺激で肛門に違和感が出現することなどを考え合わせ、本は脾虚で肝乗脾虚と捉え黄耆建中湯と五虎湯(頓用)にしたところ、主訴・体調著明改善、黄耆建中湯を続行し現在も経過観察中とのこと。このような症例について議論が交わされた。

総合討論

世良田和幸先生の司会で会員の先生方から寄せられている質問が紹介され、それに対して、両先生からコメントがあった。

一例として、風邪に対する葛根湯と麻黄湯の使い分けの質問に対し、平馬先生から「ともに風邪の初期に使用される漢方薬であるが、とくに麻黄湯は悪寒や咳き込みが強い風邪で、きわめて初期に限定して使用すべきであり、通常、病医院を受診された患者ではすでにその時期を過ぎており、むしろ葛根湯のほうが比較的安心して使用できる」とのことであった。

本勉強会へのお問い合わせは、カネボウ薬品(株)横浜営業所内の神奈川実践漢方勉強会事務局(045-201-9117)まで。